



文学談義

森
毅



© 1993 Tsuyoshi Mori
Printed in Japan



森 毅

ゆきあたりばったり文学談義

*

1993年10月 8 日第一刷印刷
1993年10月15日第一刷発行

発行者 兵頭武郎

発行所 株式会社 日本文芸社 〒101 東京都千代田区神田神保町1-8
電話 3294-8931(営業) 3294-8936(編集) 振替 東京8-73081

本文印刷所 図書印刷

カバー・表紙・扉・口絵印刷所 栗田印刷

製本所 大口製本

定価は函および帯に表示してあります
落丁・乱丁本はお取り替えいたします
ISBN4-537-05028-4 C0095

ゆきあたりばったり文学談義 目次

I

ぼくは早熟で軟弱だったんよ

小二で「新青年」を読む——17

ぼくは高学歴・無財産・核家族・一人っ子

17

大人の本を読む小学生 20

宝塚と『モンテ・クリスト伯』 22

傾向は早くも玄人好み 24

エロチックな本もアカも読む 26

数学と昆虫に魅せられて——28

「目型」の数学少年 28

中学入学時にヘロドトスの『歴史』を買う

30

本格的昆虫少年へ 31

カミキリムシに凝る 33

孤独な夢見る少年の頃—— 35

ヅカ・ガールにモテモテ 35

穴場狙いの哲学書 37

「大文字の文学」は苦手 38

古典は受験勉強で 40

演劇少年は戯曲がお好き—— 43

「本読み」という優雅な習慣 43

江戸狂い事始め 46

歌を読み、歌を詠む 48

ジロドゥと出会う 50

映画も宝塚のノリで 54

闇市でピチグリッリを見つけた—— 57

日独伊三国同盟とピランデッロ 57

春陽堂文庫がご贋 59

懐しのモボ・モガ時代 60

悪くない、太宰のうだらうだら気分 62

大学は出たけれど—— 66

旧き良き時代 66

遙かなる北の地へ 68

ぼくの読書は非ビルドゥングス・ロマンの 69

Ⅱ

文学って、おしゃれなものなんよ

詩・戯曲と旧制高校文化——73

詩人の詩より、詩人のエッセイが好き 73

詩はおまけなのか 78

元氣印の評論家たち——80

二大スター、花田清輝と福田恆存 80

六十年代のカリスマ・吉本隆明 85

コピートの天才・山口昌男 86

柄谷行人は、なぜマルクスや漱石を論じるのか

戦後派から第三の新人まで—— 91

群がり出た戦後派作家たち 91

マツチヨに転換した三島由紀夫 93

大江健三郎と開高健 94

時代に密着し過ぎた高橋和巳 96

「マチネ・ポエティク」になれない第三の新人

101

ぼくの好きな作家ベスト5—— 103

NRFとブルームズベリー 103

二十世紀文学を変えたウルフ 106

聴覚的なブルーストとギンター・グラス

110

ガルシア・マルケスと茂久衛門さん 112

カフカのおもしろさは裏切りにある

113

カルヴィーノのふしぎな世界

115

文学における嗅覚

119

ポストモダンと芸風——

122

進化論は十九世紀モダンの思想

122

回虫と花粉症

124

中沢新一と浅田彰の場合

128

二十代の芸風で四十代は乗りきれぬ

130

若い作家を読む——

133

村上春樹とノンセックス志向

133

橋本治の桃尻語について

135

SFとミステリーの楽しみ——138

SFと純文学に区分はない 138

ぼくのSFベスト3 140

ポケ・ミス読破が目標だった 141

メタ思想としての小説 145

読書はおしゃれ感覚で——147

分極化する本の値段 147

読書における「見栄」と「物好き」の重要性 149

エンデだけではつまらない 153

文学は暗く、読書は三悪だった 154

文学を支えるのは、今も昔も文学オタク 156

詩や戯曲で食うのはきつい 157

戯曲が売れる秘策あり 157

楽しきかな、わが絵本づくり 159

児童文学もニューウエーヴの時代 160

ボルヘス調で翻訳できたなら 162

外国語コンプレックス 162

陸軍士官学校の系譜 163

「あ、ボルヘスしてる」 165

i f とアジ演説 169

話し言葉がおもしろい 171

自在さと即興の魅力 171

東京のテレビ、大阪のテレビ 174

皇太子妃は名キャスター 176

Ⅲ 書評にも芸は必要なんよ

もう一つの批評の世界—— 181

予告された東大闘争 181

朝日新聞書評委員会 182

並の書評・上の書評・特上の書評 186

なぜ、赤川次郎の書評はむずかしいのか 190

補助線と切り口 193

書評は批評である 195

あとがき 203

イラスト 沢野ひとし

装幀 芦澤泰偉

ゆき
ばあたり
たり
文学談義

